

地域と大学

第17号

Newsletter No.17, Center for Education and Research of Lifelong

生涯学習の課題とセンターの役割

静岡大学生涯学習教育研究センター長（理事・副学長） 山本 義彦

1997年度に発足した当センターは、10年を経過し、11年目を前にしている。専任教員が配置されたのは1997年末であったから、ちょうど10年を過ぎたところである。文系の窓口一本化を目指すというのが当初の目標であった。

しかし果たしてそれにとどまっていた良いのだろうか。そもそも生涯学習という課題は、人生の長期にわたって、というよりむしろ人生全体に対して自己教育に努める課題を負っている人々の終生変わらない営みであり、それはおそらく自己認識を持つに至る高校生から始まるであろう人生のデザインに関わるべきことのように思う。実は私は、文部省がその第一局として設置した生涯学習政策局（当時は生涯学習局、1988年）がどのような展望をもっているか知りたくて、同僚と共に、1990年、ヒアリングした。その答えが、「東京周辺で民間放送・新聞などが行っているカルチュアセンターに見習って、運営したらどうか」といわれたことを鮮明に覚えている。

しかし本当は民間放送・新聞と競争してよいわけではなく、民間でできない、大学ならではの取り組みこそが重要というべきではないかと、ずっと考えてきた。実は1978年、当時の丸山健学長の要請で最初の公開講座運営委員となった時以来、人文学部単独の講座などを取り組んできたことから、カルチュアセンターではない深く掘り下げた内容こそが大学の知の開放に求められている課題と認識してきた。

さてそうした観点に立つ場合、むしろ高齢世代はもとより、現職世代にとってのチャレンジに満ち満ちた課題への接近、分けても昨今の「格差社会」の進展の下で注目される若者の生きがい、働き甲斐に資する支

援事業への取り組みも重要な生涯学習活動と位置づけるべきことは言うまでもなかろう。私たちのこれまでの事業もそうした観点からの見直し、再組織化が求められている。

とすれば、ひとり生涯学習教育研究センターの課題にとどめず、学内の諸社会連携組織の活動とともに、新たな行動する組織形成が求められているだろう。そこで、2007年新発足した現執行部では社会連携課題の整理と、組織再編をにらんで、前の執行部から引き続いて、検討を進めてきたところである。本センターとキャンパスミュージアム、防災ボランティアセンター、地域社会文化研究ネットワークセンター（これらは高柳記念未来技術創造館とは十分に連携をとる）を統一的活動に位置づけ、しかも学外諸組織との不断の連携活動を展望して、次ページの図のような組織化を検討しているのも、以上に述べてきた状況から見て、必然的であろう。

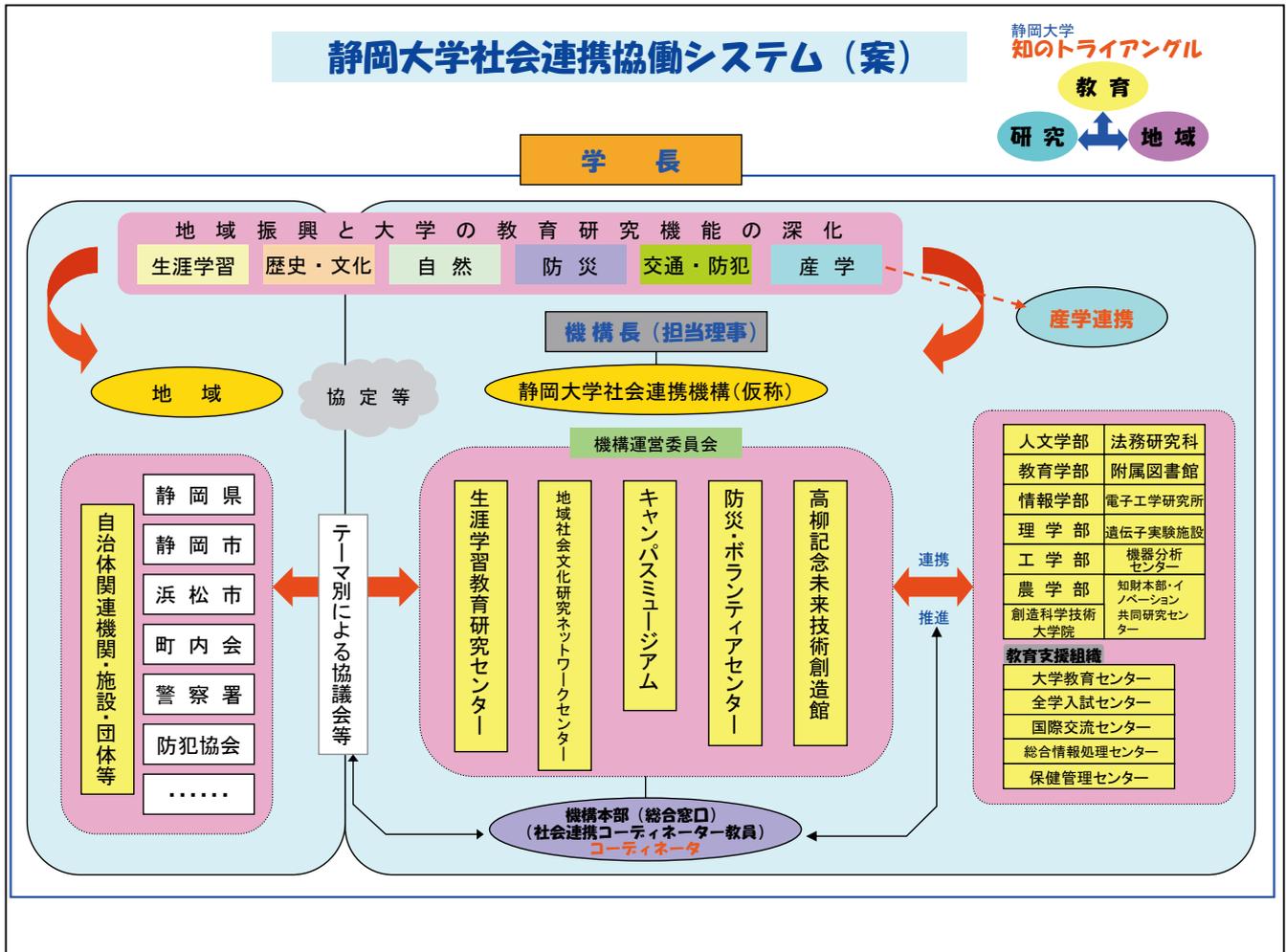
この組織では、社会連携で工学部・農学部を中心とした活動を中心に展開してきた産学連携組織であるイノベーション共同研究センター、知的財産本部との連携を図りつつも、その独自性を考慮した組織を展望している。この組織化のねらいは二つである。

一つは学内の社会連携組織の一体的運営を図ることで、連携を強化することであり、社会に対して分かり易い窓口としての機能と機動性を持たせることである。第二には、連携組織を真に行政、まちづくりを目指す商工業、町内会組織やNPOを含む社会の諸組織



と、大学内組織が絶えず連携を取りつつ、相互に利益し合う関係を構築することであり、そのためにこそ学内外連携協働の組織体に高めることであり。そのためメディア技術の開発を活用することはとても大事

になってくる。また生涯学習教育研究センターには二人の専任教員が従事し、当センターとしてのこの力を活かしつつ、皆様方の一層の御協力を御願いたい。



2007年度静岡大学公開講座が終了しました

今年度の静岡大学公開講座は、8月から12月にかけて、多岐にわたるテーマで実施されました。全体の実施状況は以下の表のとおりです。

今年度の実施成果をもとに、来年度以降の公開講座のあり方に結びつけていきたいと思っております。

種別	講座名	講師	日時	対象	会場	定員	実数	受講料	主催
教養を高める	自分史づくりと地域学	生涯学習教育研究センター教授 阿部耕也 研究協力・情報図書チーム副課長 荻田美保子 情報学部准教授 赤尾晃一 情報学部准教授 大島 純	10/30・11/6・11/13・11/20・11/27 14:00～16:00	一般の方	静岡大学附属図書館浜松分館	15	8	¥2,000	(生)
	自分で作ろうクオリティライフ (QOL)	教育学部教授 中野美恵子 教育学部教授 小川裕子 教育学部教授 新井映子 共通教育非常勤講師 周 佩芳	9/1・9/8・9/15・9/29 14:00～16:00	一般の方	沼津市立図書館	50	50	¥2,000	(生)
	聞いてなっとく! 日本語ゼミナール	人文学部教授 勝山幸人 人文学部教授 服部義弘 人文学部教授 城岡啓二 人文学部教授 熊谷滋子	9/29 10:00～17:00	一般市民、高校生、外国人留学生など	静岡市産学交流センター B-nest 第3小会議室	25	27	¥2,000	(人)

種別	講座名	講師	日時	対象	会場	定員	実数	受講料	主催
教養を高める	イギリス・アメリカへの旅～文学・文化への誘い～	人文学部教授 久木田直江 人文学部教授 鈴木実佳 人文学部准教授 大村光弘 人文学部教授 Steve Redford 人文学部准教授 山内功一郎	10/30・11/6・11/13・11/20・11/27 18:00～20:00	一般の方	静岡市産学交流センター(B-nest) 小会議室1・2	30	21	¥3,000	(生)
科学を楽しむ	体験・大学の化学実験	機器分析センター准教授 近藤 満	8/9・8/10 10:00～16:00	中学生以上	静岡大学静岡キャンパス 共通教育C棟205-北	30	17	¥2,000	(生)
	私たちの身近な環境学～炭素固定とバイオマス利用～	農学部教授 安村 基 農学部教授 角張嘉孝 農学部教授 滝 欽二 農学部教授 鈴木滋彦	8/18 13:30～16:00	高校生、大学生、一般の方	グランシップ	40	23	¥500	(農)
	「消費生活」を科学する!	教育学部教授 新井映子 教育学部教授 外山知徳 教育学部教授 大村知子 教育学部准教授 色川卓男	8/24・8/25 9:30～16:30	学生(高校生、大学生)、教育関係者、一般の方	静岡大学静岡キャンパス 教育学部B棟215教室・F棟203衣服学実習室・103食物学実習室	30	8	¥3,500	(教)
	青空教室	農学部准教授 河原林和一郎 農学部助教 浅井辰夫 藤枝フィールド助教 八幡昌紀	11/3 9:45～15:00	小学生以上	静岡大学農学部附属藤枝フィールドセンター	80	63	¥500	(農)
身体を動かそう	運動不足解消のためのエンジョイ大人卓球教室	教育学部教授 吉田和人 NPO法人卓球交流会 山田耕司	9/22 13:30～16:00 9/23 9:30～12:00	一般の方	静岡大学静岡キャンパス	50	38	¥3,000	(教)
	女性テニス教室	教育学部教授 中野美恵子 教育学部教授 横山義昭 教育学部准教授 杉山康司 教育学部准教授 祝原 豊	10/2・10/9・10/13・10/16・10/23・10/30・11/13 9:30～12:00	一般の方(女性)	静岡大学静岡キャンパス	30	20	¥7,400	(教)
指導者を育てる	学校は危ない教育活動に伴う危険とそれへの対処	教育学部教授 村越 真	8/3 10:00～16:00	静岡県内の学校教育教員	静岡大学静岡キャンパス	30	5	¥700	(実)
	ワークショップ形式による新しい理科実験・実習講座	教育学部教授 久田隆基 教育学部教授 碓 寛 教育学部教授 熊野善介 教育学部教授 小南陽亮 教育学部教授 丹沢哲郎	8/9 9:00～16:00 8/10 10:00～15:30	静岡県内の小学校教員	静岡大学教育学部附属浜松中学校理科実験室	30	16	¥2,200	(実)
	子どもの性行動の特徴とその問題点に関する基礎講座	教育学部准教授 赤田信一	8/11 10:30～12:00	静岡県内の教員	静岡市産学交流センターB-nest	30	7	¥400	(実)
	小学校英語活動スキル・アップ講座	教育学部准教授 矢野 淳 教育学部教授 林 正雄	8/20 10:00～12:00・13:00～16:00	静岡県内の小・中学校教員	静岡大学附属教育実践総合センター多目的自習室3F	25	11	¥500	(実)
	日本語の教え方(初・中級)を考える	国際交流センター教授 中里弘子 国際交流センター教授 原沢伊都夫 国際交流センター准教授 袴田麻里 国際交流センター非常勤講師 久野美津子	11/3・11/10・11/17・11/24・12/1 13:30～16:30	日本語教育に従事する方、これから日本語教師を目指す方	浜松国際交流協会フォルテビル7F	30	27	¥5,800	(国)

[主催欄凡例] (生)=生涯学習教育研究センター (人)=人文学部 (教)=教育学部 (農)=農学部 (実)=教育学部附属教育実践総合センター (国)=国際交流センター

2007年度の事業報告（4月～12月）

主催事業

公開シンポジウム 大学と博物館を結ぶ⑩ 「地域とつながる博物館」

「大学と博物館を結ぶ」をテーマに実施する公開シンポジウムも、今回で10回目を数えました。今回は、「地域とつながる博物館」というテーマを設定し、博物館学芸員が、地域や市民とどのような関係を築き、どのような考えのもとで日々の実践をおこなっているのか、現場の学芸員の実際の声を聞き、討論しました。

遠隔テレビシステムで静岡キャンパスと浜松キャンパスを結び、2会場で同時に進行しました。静岡会場、浜松会場あわせて147人の参加をいただきました。

なお、このシンポジウムの内容の詳細については、当センターが発行する研究紀要で別途報告する予定です。

■日時：2007年7月7日（土）13:00～16:00

■会場：

（静岡会場）静岡大学
静岡キャンパス共
通教育A棟301教室

（浜松会場）静岡大学
浜松キャンパス情
報学部2号館3階大・
中会議室

※遠隔テレビシ
ステムで2会場を
結んで実施

■パネリスト：

（静岡会場）

浜野達也（平塚市博物館学芸員）
田口公則（神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員）
田中之博（MOA美術館学芸部資料課長）

（浜松会場）

太田好治（浜松市博物館学芸員）
堀切正人（静岡県立美術館主任学芸員）

■コーディネーター：

金子 淳（静岡大学生涯学習教育研究センター准教授）
高松良幸（静岡大学情報学部教授）

■参加費：無料

■参加者数：静岡会場119人、浜松会場28人



シンポジウム「地域とつながる博物館」チラシ

公開セミナー

「学ぶって楽しい！～大学で学ぼう～」

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができるように、「学ぶって楽しい！」と題する公開セミナーを実施しました。知的障害のある人にとっても、学び続ける機会があることで、社会参加の幅が広がり、人生をより豊かにすることができます。大学のキャンパスを学ぶの場にしようという趣旨の企画です。

前期と後期の2回、それぞれ別の内容で実施しました。ボランティアの方々も含めたくさんの方々に参加いただきました。

[前期]

■日時：2007年6月24日（日）9:10～12:10

■内容：

- ①「地震はなぜ起こる？」講師：小山真人（静岡大学教育学部教授）
- ②「アイスブレイクからはじめよう～心理の世界へようこそ」講師：大畑智里（静岡大学教育学部附属特別支援学校教諭）

[後期]

■日時：2007年10月28日（日）9:10～12:10

■内容：

- ①「コンビニの秘密」講師：伏見一茂（セブン・イレブン・ジャパン東海ゾーン）
- ②「モーターってなんだ？～ペットボトルモーターをつくろう！～」講師：増田好治（静岡大学名誉教授、NPO法人技術教育教材開発研究会）

[共通事項]

■会場：静岡大学大会館ホール

■参加者：静岡県の知的障害養護学校等卒業の社会人（18歳以上）、県立養護学校（特別支援学校）等の教員、青年学級等の関係者・保護者、静岡大学教育学部特別支援教育（障害児教



公開セミナー「学ぶって楽しい！」会場風景（6/24）

育) 専攻の学生、静岡県知的障害者就労研究会会員など

■参加費：無料

■企画：静岡県知的障害者就労研究会

公開セミナー

「安心登山・ハイキングのための読図講習」

中高年のハイキング、登山ブームが続いている中、山岳遭難に占める道迷いの割合は3割近くにもなっています。安心してハイキング、登山を楽しむため、しっかりした読図力を身につけることを目的に実施しました。山岳遭難の実態



公開セミナー「読図講習」チラシ

の解説を含め、地図記号から等高線の理解までの初級の読図について、机上演習を交えて学びました。

■日時：2007年12月8日（土）10:00～12:00

■会場：静岡市産学交流センター（B-nest）大会議室

■講師：村越 真（静岡大学教育学部教授）

■参加費：無料

■参加者数：23人

■アンケートより：

- ・自分の読図力を深めることができ良かった。
- ・山登りの時など、その場で地図を見てその場で判断することが多かったため、今日教えてもらったように事前に地図読みをしてから山に登りたいです。
- ・地図の見方や使い方が分かったため、山登りする時に生かしたいです。
- ・等高線についてはある程度分かっていたのですが、今回 尾根線・谷線を引いて実際の山の形が見えてきました。
- ・具体的な地図を見ながらなので分かりやすかったのですが、自分自身今まで地図の基礎知識もなくて歩き回っていたな、と改めて感じました。

共催事業

地域連携セミナー「座談会 南蛮の音楽・踊りと江戸の芸能～絵画資料でめぐる東西芸能史～」

駿府静岡歴史楽会との共催による地域連携セミナーとして、座談会を開催しました。

中世ヨーロッパから近世江戸にいたるさまざまな芸能文化について、豊富な画像や文献資料を交えながら、それぞれの専門の立場から話し合いました。

■日時：2007年9月24日（月・祝）13:30～15:30

■会場：ふれあいホール（静岡市役所清水庁舎3階・旧清水市議会議場）

■講師：吉田稔美（イラストレーター・絵本作家）

武藤純子（学習院大学生涯学習センター講師）

久木田直江（静岡大学人文学部教授）

■進行：小二田誠二（静岡大学人文学部准教授）

■参加者数：30人

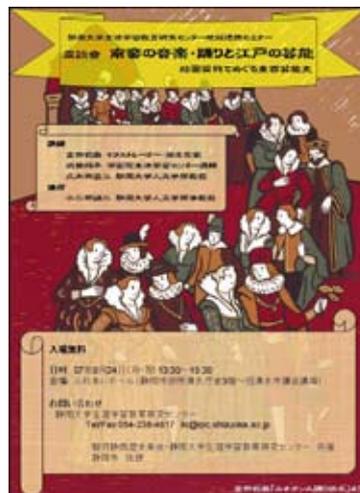
■参加費：無料

■主催：駿府静岡歴史楽会／静岡大学生涯学習教育研究センター

■後援：静岡市

■アンケートより：

- ・音楽を中心とした東西交流にとっても興味を持ってました。
- ・テーマに興味をもって参加したが、新しい知識を得ることが出来た。
- ・たいへんおもしろかった。異なる分野の三人の方が、音楽という切り口で語って頂いたのがよかった。



地域連携セミナー「南蛮の音楽・踊りと江戸の芸能」チラシ

文化講演会

「この青い海と空を守れ!!」

有度国際セミナー・NPO法人エイジングブライト倶楽部との共催により実施しました。

■日時：2007年8月9日・23日（木）13:00～15:00

■会場：静岡市産学交流センター（B-nest）大会議室

■内容：

①8/9「21世紀の羅針盤」講師：松田 智（静岡大学工学部教授）

②8/23「地球温暖化と生態系の異変」講師：鈴木 款（静岡大学創造科学技術大学院教授）

■参加費：1,000円（全2回分）

■主催：有度国際セミナー／NPO法人エイジングブライト倶楽部／静岡大学生涯学習教育研究センター

■後援：静岡県教育委員会／静岡市

公開シンポジウム

「対人援助の倫理と法」

医療・看護・福祉・介護・心理から教育にまで広がる対人援助の場面における倫理や法の問題に関して共同研究をおこなってきたまとめとして、シンポジウムを開催しました。全国的に活躍する論者を招き、静岡県下で活躍する心理関係者と法律関係者がそれぞれの現場の声を代表する形で、地域の関係者、関心のある方々とともに考えました。

■日時：2007年9月1日（土）13:30～17:30

■会場：静岡市産学交流センター（B-nest）大会議室

■提題：

- ①「援助職倫理の基礎と動向」講師：村本詔司（神戸市外国語大学外国語学部教授）
- ②「臨床心理士の活動と倫理～静岡県臨床心理士会の取り組み～」講師：福永博文（浜松学院大学教授・静岡県臨床心理士会会長）
- ③「法律実務における心理的配慮について～犯罪被害者支援実務を例にして～」講師：白井孝一（静岡大学法科大学院教授・弁護士）

■参加費：無料

■主催：共同研究プロジェクト「対人援助（心理臨床・ヒューマンケア）の倫理と法」

■共催：静岡大学人文学部／静岡大学大学院法務研究科（法科大学院）／静岡大学生涯学習教育研究センター

■後援：静岡県臨床心理士会／静岡県弁護士会

企画協力事業

富士川町・大学公開講座

「茶文化と日本人の暮らし」

富士川町文化事業振興会主催で、当センターが企画協力した大学公開講座。この講座は、静岡大学のほか、静岡県立大学、常葉大学、東海大学の4大学がそれぞれテーマの設定や講師の選定を担当して実施されるもので、静岡大学では「茶文化」をテーマに企画しました。お茶の歴史や文化、効用、現代の生活にもたらす意義などについて、5回にわたって、歴史学、文化人類学、経済学、農学、茶道など



富士川町・大学公開講座開講式

さまざまな立場から総合的に考えました。

■日時：2007年9月27日・10月4日・11日・18日・25日
（木）[計5回] 19:00～21:00

■会場：富士川町中央公民館

■内容：

- ①9/27「中国での茶文化の起こり」講師：埋田重夫（静岡大学人文学部教授）
- ②10/4「近代静岡の茶業発展」講師：山本義彦（静岡大学理事・副学長）
- ③10/11「お茶の効用と生活での活用」講師：杉山公男（静岡大学農学部教授）
- ④10/18「現代の暮らしと茶の湯の精神文化」講師：吉野亜湖（茶道研究家）
- ⑤10/25「お茶から読み解くイギリスの歴史と文化」講師：鈴木実佳（静岡大学人文学部教授）

■参加費：3,000円

■参加者数：17人

■主催：富士川町文化事業振興会

■共催：富士川町・富士川町教育委員会

■企画協力：静岡大学生涯学習教育研究センター

吉田町・大学特別公開講座

「郷土における武田・徳川の攻防」

吉田町教育委員会主催で、当センターが企画協力した大学特別公開講座。6回にわたり、吉田町周辺の史跡の話を織り込みながら戦国時代の郷土に思いをはせました。

■日時：2007年9月21日・28日・10月5日・12日・26日・11月2日（金）[計6回] 19:30～21:30

■会場：吉田町中央公民館

■講師：小和田哲男（静岡大学教育学部教授）／本多隆成（静岡大学人文学部教授）

■内容：

- ①9/21「今川氏の遠江進出と大井川西岸地域」（小和田）
- ②9/28「今川義元・氏真時代の吉田町とその周辺」（小和田）
- ③10/5「武田信玄と家康～三方原の合戦～」(本多)
- ④10/12「武田勝頼と家康～高天神城の攻防～」(本多)
- ⑤10/26「豊臣秀吉と家康～小牧・長久手の合戦～」(本多)
- ⑥11/2「山内一豊と掛川領支配」（本多）

■参加費：2,000円

■参加者数：37人

■主催：吉田町教育委員会

■後援：静岡大学人文学部日本史学研究室

■協力：静岡大学生涯学習教育研究センター

2007年度静岡大学市民開放授業

市民開放授業の概要

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放し、正規学生と一緒に受講していただくもので、2005年度から実施しています。



2007年度の開講科目数の状況は下表のとおりです。

開講場所	前期	後期
静岡キャンパス	162	145
浜松キャンパス	24	41
両キャンパス共通(テレビ会議システム)	1	1
合計	187	177

市民開放授業懇談会

市民開放授業の2007年度後期の受講生募集に先立ち、市民開放授業の「事前説明会」と、市民開放授業受講生による「懇談会」を開催しました。

「懇談会」は、市民開放授業制度導入後3年目を経過して、受講体験者が、このシステムをどのように評価



し、今後の静岡大学に何を期待しているかを探るために、受講者の皆さんと直接、意見交換をする場を設けたものです。たくさんの貴重なご意見をいただきありがとうございました。

■日時：2007年9月20日(木) 事前説明会：10:00～11:00 懇談会：11:00～12:00

■会場：静岡市産学交流センター (B-nest) 6F プレゼンテーションルーム

■参加者数：40人 (ほかに聴講者からの意見アンケート葉書を受け取っている)

■懇談会の内容(要旨)：

[受講生からの意見・感想]

- ・受講者に広報をお願いしたい。
- ・17年度から参加している。会社での仕事と違って、抽象的な議論ができて良かった。
- ・前期受講。経済社会ほか、政治自体に納得がいかないために受講した。先生方がどのように教育しているか確認の意味でも受講した。
- ・社会人が加わることによって、現実を見ることが出来る。静大は授業で議論がない。学生との交流があると良い。自分にとって何(仕事)があっているのかなど、大学で自分を見つける良い機会だと思う。後期も受講したい。
- ・学生との間のコミュニケーションがない。学生たちとの会話の機会が欲しい。
- ・まわりの学生とよく話すようにしている。学生から「なぜ勉強しているのですか」との質問があった。先生に対しては手紙をしょっちゅう出している。
- ・学生同士もコミュニケーションが少ない。県大も同じ。静大は留学生が多い。教員は遠慮して教えているようだ。毎年、学生アンケートがあるが、先生の評価となるのでマイナスにならないようにしている。騒がしい学生に対して注意していない。終了直前に入ってくる学生がいても注意しない。
- ・スタッフの方、熱心に対応してくれている。今回のような懇談会(アンケート)を実施してくれていることがとてもよい。県大は何も対応しない。
- ・70歳以上である。結構コミュニケーションはうまくやっている。コミュニケーションは自分から入っていないとだめ。特にゼミなど留学生と社会人が前の席にいて、他の学生は最後尾にいるため、始まる前に学生に前に座るよう言ったことがあった。

大学は汚い。学生の掲示板は期限切れがあつたり、教室の黒板が汚い。倒産した会社みたい。また、遅刻者が多い。学生・教員もいる。注意すべき。大学の常識は社会の非常識。

- ・安い講習料でありがたい。学生は6名で少ないため、けっこう勉強している。アンケートで学生に媚びてはだめと教員に言ったことがある。学生自治会がない。学生に元気がない。大学の精神があるのか？ 静大の目標は？ 帰属意識はあるのか？ 精神的な支柱が必要ではないだろうか。
- ・県大に行っていた。静大にも社会人の講座があると聞き、はじめて来た。
- ・はじめて受講。単位がなければ続かないと思う。励みに何かほしい。
- ・リーズナブルのため、年金生活者としてはとてもありがたい。学生とコミュニケーションをとり、とても楽しかった。アッパレ会に参加したが、フィールドワークが多く疲れた。校歌なども必要では。
- ・大岩校舎のときに比べて、教員は親切であり、きちんと書いているのでとてもよい。
- ・学生とのコミュニケーションではなかなか発展していかない。何人かの学生とは親しくなった。学生自身ばらばらなので、学生と討議することはない。
- ・私自身高卒のため、レベルが高く感じる。カルチャー

センターを受ける気はなく、自分に簡単に学力が身につくものとして受講。娘が大学に行っている。

- ・実際に教員にも刺激をいただいている。大学自身も良い。地域の力を明確にしていくことが必要。

[意見交換]

(センター長) 大学を変革したいと考えている。社会の目が必要だし、教員も努力が必要。先生達にはそういう要望を出している。

(受講生) 人間にかかわる授業が少ない。県大の方がきれい。社会人は遠慮がある。

(センター教員) 今後の方向、授業のかたち、方法を変えてほしいという声がある。B-nestを使う等、検討したい。キャンパスツアーに学生を導入したい。また、大学祭に市民開放授業の受講生の参加を検討している。

(受講生) コミュニケーションはそれぞれが実施すれば良い。遅刻はそれぞれのため仕方がない。大学は自由でよいのでは？ 大学では自由な考えで良い。

(センター長) 今までは非常におそまつな対応だった。法人化したから、特に予算面で自由にできるようになった。開放授業など、学生たちへのサービスについて、教員たちも考える必要がある。大学も、社会の礼儀も教える必要がある。社会からの批判に対応したい。これが大学の責任である。

生涯学習教育研究センター運営委員会

当センターには、「生涯学習教育研究センター運営委員会」が組織されています。当センターの運営や組織について審議するとともに、全学公開講座の企画・立案・実施に関しても審議します。静岡大学の教員により組織され、定期的に審議をおこなっています。

運営委員名簿 (2007年度)

山本 義彦	センター長・理事・副学長
中野美恵子	副センター長・教育学部教授
阿部 耕也	センター専任教員・教授
金子 淳	センター専任教員・准教授
桐谷 仁	人文学部教授
小西 潤子	教育学部准教授
林 道生	情報学部教授
塚越 哲	理学部准教授
安藤 和敏	工学部准教授

竹之内裕文	農学部准教授
青木 徹	電子工学研究所准教授
佐藤 龍子	大学教育センター准教授

生涯学習教育研究センターでは、学内の公開講座情報、大学開放事業などを掲載し、広報します。各種情報を当センターまでお寄せください。
URL <http://www.shizuoka.ac.jp/~cerll/>

地域と大学 第17号

静岡大学生涯学習教育研究センター情報誌

発行日—— 2008年1月18日

発行—— 静岡大学生涯学習教育研究センター
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
(理学部B棟1階)

TEL&FAX: 054-238-4817 (資料室・受付)

E-mail : LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

(事務局) 静岡大学研究協力・情報図書館チーム TEL:054-238-4317